

函館市認知症初期集中支援チームの活動状況について (H30年度からR6年9月まで)

(1) 事業対象者数 (年度および性別) (人)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度 (※9月末時点)	合計
男性(人)	3	3	1	1	0	0	2	10(43%)
女性(人)	7	5	1	0	0	0	0	13(57%)
合計(人)	10	8	2	1	0	0	2	23(100%)

(2) 事業対象者の状況 (訪問支援対象者の内訳) (人)

認知症疾患の臨床診断を受けていない	22
医療サービス、介護サービスを受けているが、認知症の行動・症状が顕著で対応に苦慮している	1

(3) 事業対象者の把握ルート (人)

SOSネット トワーク	民生委員	水道業者	本人	配偶者の ケアマネ	郵便局	ケアマネ	家族
1	1	1	1	2	2	4	11

(4) 事業対象者へのチーム支援の実施結果 (人)

チーム介入後		支援終了時	
認知症専門医受診	15	在宅生活	10
		認知症に伴い入院	2
		一般病院に入院	1
		死亡	1
一般病院に入院	3	一般病院に入院	2
GH入所	1	GH入所	1
受診拒否	3	在宅生活	3
死亡	1	死亡	1

※支援終了時在宅生活の13人の内訳

- ・サービスの利用（継続含む）8人
- ・要介護認定まで 3人
- ・介護保険未申請 1人
- ・その他 1人

令和5年度、令和6年度9月までの相談ケース概要

事業対象外					
	相談 受付	年齢	性別	概要	対応
1	R5	80代	女	独居。H30夫の老健入所後スタッフに対して暴言を吐く等精神不安定。その後も妄想症状あり。家族は専門医受診を強く希望したが本人は拒否。認知症疾患医療センター、包括、市で訪問し事業対象とするか検討。包括と認知症疾患医療センターへの同行受診に繋がり、通常支援での対応となった。その後介護認定、成年後見制度の利用につながった。	通常支援
2	R5	80代	女	独居。甲状腺がんで定期的に内科通院。家事全般、金銭管理は自立。R3から幻視の症状あり。曜日やスケジュール管理の困難あり。認知症に関する受診なし。包括が専門医受診勧めたが本人拒否。家族が同行し精神科を受診したが、受診した病院で対応困難となり他院での検査を勧められた。その後は未受診のまま経過。一度病院受診につながったことから事業対象外として、通常支援での対応となった。	通常支援
3	R6	80代	女	独居。要支援1。認知症以外の健康状態から介護サービスを利用していたが、物とられ妄想等の症状が出現し、専門医受診やサービス利用を拒否。家族が支援困難を訴えケアマネに相談。認知症疾患医療センターの早期受診が可能となったことから、家族の意向も踏まえ、包括および認知症疾患医療センターによる通常支援での対応となった。	通常支援

事業対象					
	相談 受付	年齢	性別	概要	対応
1	R6	70代	男	妻と同居。要介護2。交通事故による外傷性くも膜下出血等の既往あり。眩暈の症状あるが未受診。階段踏み外すなど転倒の場面増え、家に閉じこもりがち。宅配サービスを利用しビールを箱買いし、妻が不在時は昼から飲酒。妻に対してどなることが多くなった。妻は服薬管理や金銭管理、親の介護、週2回の就労で介護負担大。精神医療受診、専門医受診、妻の介護負担軽減を進めるため事業対象者として支援開始するが、専門医受診予定を控え、自宅で転倒。函病に救急搬送され高橋病院に入院。経鼻経管栄養中で在宅生活困難なため、介護医療院への入所検討中。	支援継続か 検討中
2	R6	80代	男	独居。認知症に関する受診なし。水道、光熱費等は頻繁に未払い。自宅は不衛生。年金、生活保護費が入るとパチンコ、競輪に使う。2年間入浴なし。食事摂取せず過ごすことも多く、やせ。介護者の妹は本人の病院受診希望。事業対象者として、7月18日初回訪問。9月6日チーム員会議実施。認知症疾患医療センターの受診、介護認定、介護サービスの利用、成年後見制度の利用につながり、現在も在宅生活を継続中。	支援中